

S04a

## MAGIC 報告 6: MAGIC 望遠鏡による最近の活動銀河核の観測

高見一、齋藤浩二、齋藤隆之、遠山健、中嶋大輔 (Max-Planck-Institut für Physik), 折戸玲子 (徳島大学)、櫛田淳子 (東海大学)、手嶋政廣 (Max-Planck-Institut für Physik / 東京大学宇宙線研究所)、林田将明 (KIPAC/SLAC/京都大学)、宮本寛子 (理化学研究所)、他 MAGIC Collaboration

MAGIC 望遠鏡はスペイン、カナリア諸島のラ・パルマ島に置かれている 17 メートルの直径を持つ鏡からなる世界最大の解像型ガンマ線大気チェレンコフ望遠鏡であり、世界で稼働している大気チェレンコフ望遠鏡の中で 50GeV という最も低いエネルギー閾値を達成している。この低いエネルギー閾値はフェルミガンマ線望遠鏡の観測するエネルギー領域とのオーバーラップを実現しており、また遠方の天体から放射されるガンマ線がほとんど吸収されないエネルギー領域から吸収されるエネルギー領域までをカバーするので、MAGIC 望遠鏡は銀河系内・銀河系外の天体からの GeV-TeV 領域のガンマ線放射の理解のための強力な観測データを提供してきている。

本講演では最近の MAGIC 望遠鏡による活動銀河核の観測結果についていくつか紹介し、そこから示唆される活動銀河核の放射源の物理や、ガンマ線の背景放射による吸収などについて議論する。